

同時資料提供：高松サポート合同庁舎記者クラブ、池田日刊新聞放送記者会

記者提供資料

池田ダムにおける一時的な水量調整に対する 今後の対応について

平成24年8月24日（金）にお知らせいたしました「池田ダムにおける一時的な水量調整について」に関して、その原因及び今後の対応についてお知らせします。

平成24年 9月28日

国土交通省 吉野川ダム統合管理事務所
独立行政法人 水資源機構 池田総合管理所

【問い合わせ先】

国土交通省 吉野川ダム統合管理事務所

TEL 0883-72-3000

◎管理課長 かさい ひろゆき 笠井 博之（内線331）

水資源機構 池田総合管理所

TEL 0883-72-2050

第一管理課長 なかぞの たかよし 中園 孝介（内線331）

◎主な問い合わせ先

池田ダムにおける一時的な水量調整に対する 今後の対応について

平成24年8月24日（金）にお知らせいたしました「池田ダムにおける一時的な水量調整について」に関して、原因及び今後の対応についてお知らせします。

なお、四国地方整備局吉野川ダム統合管理事務所及び水資源機構池田総合管理事務所では、今回の事案を踏まえ、更に適切かつ効率的な水管理を実施します。

1. 経緯

池田ダム地点で徳島用水・香川用水に必要な確保量をまかなうため、前日の降雨量等から早明浦ダム～池田ダム間の流域の流出量を予測し日々決定し補給しています。

通常、池田ダム地点で確保すべき流量に対しては、流域より流出してくる量と早明浦ダムより補給する量とで必要量を確保しています。

平成24年8月24日（金）においては、池田ダムと早明浦ダム間の流域からの流出量が予測より少なかったため、池田ダムの流入量が少なくなり、池田ダム貯水位が大きく低下することが予測されました。

貯水位が低下した場合には、吉野川北岸用水及び香川用水の取水障害が懸念されるため、一時的に下記の対応により水量調整を行い、取水への影響を回避しました。

【対応内容】

- 1) 池田ダム上流の四国電力(株)発電専用ダムにおける発電放流の前倒し
- 2) 香川用水（上水分）の取水量のうち、 $3\text{ m}^3/\text{s}$ を宝山湖（香川用水上水調整池）の貯留水で振替（6時間程度）し、香川用水の取水量を $3\text{ m}^3/\text{s}$ 削減
なお、池田ダムの貯水位が最低水位を下回らないことを確認し、8月24日19時15分より香川用水の取水量を回復。
8月25日9時より宝山湖へ注水するための作業を開始し、8月26日8時過ぎに宝山湖への注水を完了
- 3) 池田ダム下流の水量を $3\text{ m}^3/\text{s}$ （6時間程度）程度一時的に削減
なお、池田ダムの貯水位が最低水位を下回らないことを確認し、8月24日19時15分より池田ダム下流の水量を回復

経緯詳細

8月23日（木）

12:00～19:00 降雨

21:00～21:40 要請量（早明浦ダムからの補給）の減量を検討。

21:40 要請量変更の協議・決定

8月24日（金）

6:00～8:30 池田ダム水位予測の実施

8:30 池田ダム水位予測結果

15:00頃には池田ダムの最低水位（EL 87.50m）を下回るものと予測。

9:20～ 三縄発電所ピーク発電放流開始

13:00～ 香川用水取水量 3 m³/s減量、池田ダム下流放流量 3 m³/s減量

13:45～ 香川用水 宝山湖からの送水を開始

17:15 ダム統管・池田総管 記者発表

「池田ダムにおける一時的な水量調整について」

同時資料提供：高松サポート合同庁舎記者クラブ

池田日刊新聞放送記者会

19:15～ 池田ダムの貯水位が最低水位（EL. 87.50m）迄下がらないことを確認の上、香川用水取水量 3 m³/sと池田ダム下流放流量 3 m³/sの回復を実施。

20:45～ 香川用水 宝山湖からの送水を終了（宝山湖からの送水量約61,000m³）

8月25日（土）

9:00～ 香川用水 吉野川からの取水量を増量（宝山湖への注水のため）

9:40～ 香川用水 宝山湖への注水を開始 最大 0.80 m³/s

8月26日（日）

6:30～ 香川用水 吉野川からの取水量を減量（計画取水量に戻す）

8:08 香川用水 宝山湖への注水を停止（宝山湖への注水量約61,000m³）

2. 原因

局所的・集中的な降雨の流出予測に乖離があった。

- ①河川流量の低減が予測より急であった。
- ②低減の継続時間が予測より長く続いた。(6時間→10時間)

1) 予測精度の誤差

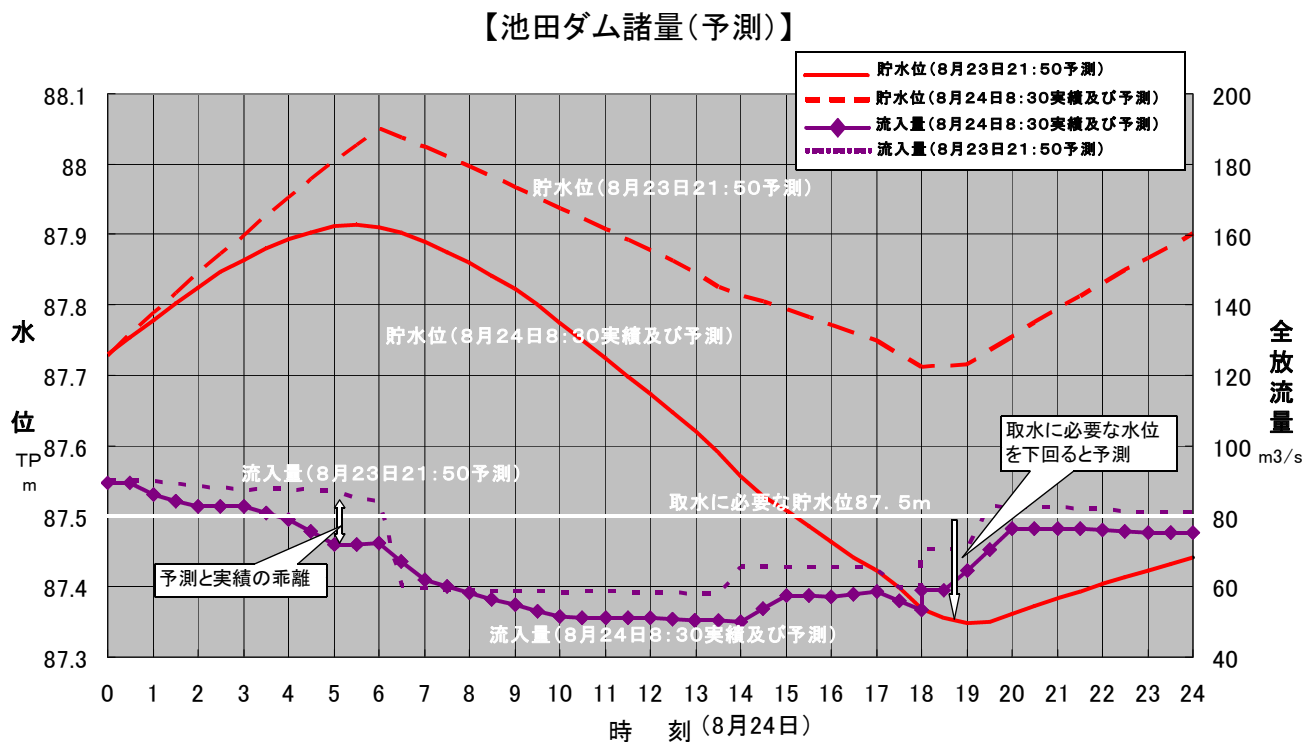
広い流域を持つ池田ダム上流域における降雨については、広範囲に渡ることから局所的・集中的なものまでそのパターンは多様であり、限られた雨量計、水位計のみでの流出予測では、誤差が生じる場合があること。

2) 降雨特性の影響

今回の降雨については、狭い地域において集中的に降雨があったため、特に予測が困難であったこと。

通常、集中的な降雨の場合、河川流量は短時間で大きく低減する傾向にある。

今回の降雨についても集中的な降雨であったため、これまでの実績データより河川流量が大きく低減すると予測したが、実績の低減は予測を更に上回る結果となった。



3. 今後の対応

よりきめ細やかな管理を実施するとともに新技術の開発についても進めていく。

1) 予測精度の誤差に対する対応

【すでに実施した対応】

① 予測頻度の増加『監視体制強化』

降雨等により補給量を変更した場合は1時間毎に状況の確認を行う。
(通常3～4時間)

② 警報設定の変更『監視体制強化』

池田ダムで極端な水位・流入量の上昇・下降があった際には警報が鳴るようにし、河川の状況をきめ細やかに把握する。

【短期的な取り組み】

③ 警報設定機能の追加『監視体制強化』

上流水位局において予測に対し誤差の上、下限値を設定し、警報できる機能を追加し、池田ダム上流で生じた予測と実績の乖離を早期に把握する。(一部実施済み：下名水位局、祖谷口水位局)

2) 降雨特性の影響に対する対応

【継続的な取り組み】

① 現行予測手法の見直し『現行手法の評価、改良』

引き続きデータを蓄積し、新しい技術の活用も含め、継続的に予測手法の内容について見直しを行っていく。

【中期的な取り組み】

② 分布型流出モデルによる予測システム『新しい技術の活用』

現在は定点観測所の雨量データや河川流量データを基に流出予測を実施しているが、面的データを活用した分布型流出モデルの試行運用を来年度より行い、本施行に向け精度向上を図る。

3) その他（精度の確保に向けた対応）

【継続的な取り組み】

① 雨量計、水位局の確認『精度維持』

確実なデータ取得のため引き続き機器の監視、点検を継続する。
(今回は異常なし)

【短期的な取り組み】

② データ取り込みの自動化『精度維持（誤入力の回避）・迅速化』

実績データ、計画データ等について手入力から自動化に切り替える。